

## 小学生向け食農体験講座：稲作と芋掘りを中心に

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 静岡大学教育学部 公開日: 2013-04-15 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 藤井, 道彦 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10297/7180">http://hdl.handle.net/10297/7180</a>

## 小学生向け食農体験講座 －稲作と芋掘りを中心に－

技術教育講座 藤井道彦

### はじめに

近年、食の安全・安心が注目され、食に対する関心が高まっている。学校教育の中においても食育の推進が重要視されている。しかし、現在、学校教育において実践されている食育の多くは、「食」のみに重点を置いて扱ったものが多く、「食」の前提となる「農」についての体験をふまえた「食農体験」としての観点に欠けことが多いように思われる。

しかし、作物の栽培に必要な労力や時間が必要であり、また、栽培に要する場所を考えると、教育現場だけで多様な食農体験を行うことは困難なことが多いと思われる。その改善策のひとつとして、大学との連携があり、大学が関わることにより、教育現場のみでは実践することが容易ではない食農体験や、子どもたちに興味をもたせることができる、より深い内容についても扱うことができるものと期待される。

また、教育現場と大学とが連携することの中で、大学生が食農体験講座に補助として、目的意識をもって子どもたちと関わることにより、教育学部において将来教員を目指している大学生にとって、教員採用においても、また、将来教員として採用されて実際に子どもに教える立場になった際ににおいても、大変貴重な体験をすることのできる機会であると考えられる。

### 1. 食農体験講座の実践

昨年に引き続き、大学近くにある静岡市立大谷小学校 3 年生 50 名を対象に、総合的な学習の時間を利用させていただき、食農体験講座を行った。食農体験講座は、子どもたちに大学まで来てもらい、静岡大学教育学部自然観察実習地において各回約 2 時間行い、約 1 ヶ月に 1~2 回の割合で、10 月から 2 月にかけて、以下の内容で計 7 回の実践を行った。

- ・実施日時：第 1 回 10 月 1 日（木）野菜苗の畑への定植  
第 2 回 10 月 21 日（水）稲刈り  
第 3 回 11 月 4 日（水）野菜の収穫  
第 4 回 12 月 1 日（火）サツマイモの芋掘り、野菜の収穫  
第 5 回 12 月 15 日（火）サツマイモの試食、野菜の収穫  
第 6 回 1 月 19 日（火）稲刈り後の作業とわら縄作り、  
野菜の収穫  
第 7 回 2 月 23 日（火）餅つき、野菜の収穫
  
- ・参加人数：小学 3 年生 50 名
- ・活動場所：静岡大学教育学部自然観察実習地

食農体験講座全体としては、稲作についての体験・サツマイモの芋掘り・サツマイモと餅の試食以外に、野菜の栽培・試食についても行ったが、ここでは稲作体験と芋掘りを中心紹介する。

稲作では、食農体験講座を開催する時季的な制約から稲刈りからの体験となつたが、子どもたち自身で鎌を用いた稲刈り（図 1）を行い、刈ったイネは、はざ架けしてもらった。また、収穫後に食用となるためには多くの作業を行うことが必要であることを体験を通して学習するため、脱穀・糲すり・精米といった稲刈り後の作業を、手作業で体験してもらった（図 2）。また、脱穀で生じる稻わらも利用することができ、昔から有効に利用してきたことを、わら縄作りの体験を通して学習してもらった。ほとんどの子どもが、わら縄を

作ることができた。もち米を用いたため、最後に、自分たちで収穫した無農薬栽培の米を用いて餅つきを行い（図3）、自分たちでついた餅の試食を行った。

サツマイモの芋掘りも、食農体験講座を開催する時季的な制約から、芋掘り（図4）からの体験となったが、紫芋も含め4種類のサツマイモの茎や葉、掘った芋の色や形などを比較してもらった。収穫した芋は品種ごとにゆで、4種類のイモの味や色などを比較してもらった。

それぞれの食農体験においては、希望する大学生に子どもの体験補助をしてもらった。食農体験講座の様子を以下に示す。



図1 稲刈りの様子



図2 稲刈り後の作業の様子



図3 餅つきの様子



図4 芋掘りの様子

体験後の子どもの感想から、「稻刈り後の作業が大変だと分かった」、「昔の人はごみを出さないための工夫をしていたことが分かった」、「昔の人は手で作業をするから大変だなと思った」など、「食」を得るための大変さに気付いたようだった。また、「同じサツマイモでも、みんな少しずつ味や色も違っていてびっくりした」「稻刈りのこつがわかりました」など多くの発見をしている様子がみられ、「わら縄作りは最初は大変だったけど楽しかった」「きねが重かったけど、みんなでついたおもちはとてもおいしかった」「どれもみんな楽しかった」など、自分たち自身で作ったものに対して喜びを感じているようであった。

## 2. まとめ

食農体験講座を通して、子どもたちが大変意欲的に興味をもって体験に取り組み、また、体験を通してさまざまな発見をしている様子がみられ、体験を通じた食育の重要性が認められた。また、子どもたちの感想からも、食を得るための大変さに気付き、また、自分で作った「食」に対して、大変満足しているようであった。また、食農体験を通じた感想や発見は、最終回の全体についての感想にも詳しく書かれており、体験を通して身につけたことは、時間が経過してもはっきりと記憶しているようであった。食農体験講座の補助をしてくれた学生も、子どもたちの姿や反応に多くの発見をし、教員になるにあたっての貴重な体験となったようである。

今後も、食農体験の教材化について、さらに検討していく予定である。